

短 報

チシマルリソウ（ムラサキ科）の花筒内有毛の一品種（福田知子^a, 高橋英樹^b）

Tomoko FUKUDA and Hideki TAKAHASHI: A New Form of *Mertensia pterocarpa* Tatew. & Ohwi (Boraginaceae) with Hairs in Corolla Tube

広義のチシマルリソウ *Mertensia pterocarpa* (Turcz.) Tatew. & Ohwi はムラサキ科ハマベンケイソウ属の一種で、北海道から南千島に分布する。このうち、北海道産はエゾリソウ var. *yezoensis* Tatew. & Ohwi, 南千島産は狭義のチシマルリソウ var. *pterocarpa* とされる。*M. pterocarpa* の花は、喉部 (Fig. 1A, B の矢印) を除けば、花筒内に毛はない (Popov 1953)。今回、*M. pterocarpa* の標本約

50点の花を解剖し調べたところ、花筒内全体にわたって毛を有するものが見つかった。

今回見つかった花筒内有毛の標本は、同じく花筒内に毛がある北米産の *M. paniculata* や *M. pilosa* である可能性もあり、特に後者は千島列島に産すると疑われた (Komarov 1930, Popov 1953) こともある。それでこれら2種と比較観察した。

この標本では小堅果は未熟であるが、葉面

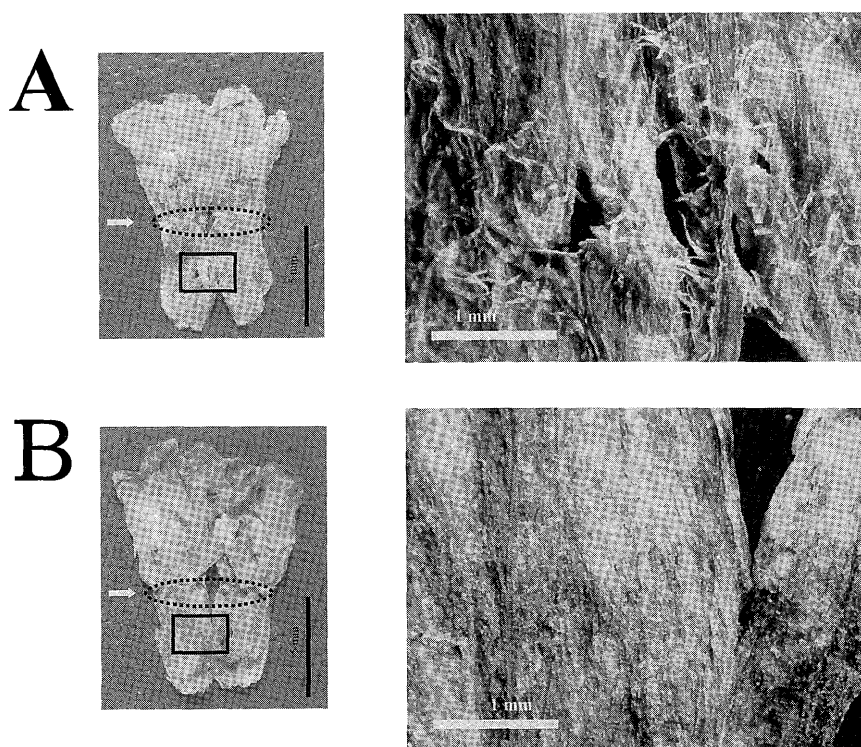


Fig. 1. Dissected flowers and their inside. A. Flower (left) of *Mertensia pterocarpa* var. *pterocarpa* forma *yoshimurae* (B. Yoshimura & H. Yokoyama s.n., SAPS, holotype) and the hairs on the inside of the corolla tube (right). B. Typical flower (left) of *Mertensia pterocarpa* var. *pterocarpa* (Isl. Shikotan, Shikotanzaki, June 29, M. Tatewaki 20820, SAPS) and the inside of the corolla tube (right). Arrows indicate the throat.

の毛の特徴、葉脈の形状（葉頂に集まる弧状）、がく裂片背面の毛（無毛）など、花筒が有毛であること以外は *M. pterocarpa* の形質にあてはまる。*M. paniculata* は葉脈がすべて羽状 pinnately veined (Williams 1937) である点で、今回の標本とは明らかに異なる。*M. pilosa* は小堅果に不整な鋸歯を持ち (Hultén 1930)、小堅果が網一しわ状 (Komarov 1930)、葉の両面が有毛 (Komarov 1930, Popov 1953) である。今回の標本は小堅果が未熟であるが未発達の翼がみられ、葉の表面（向軸側）にのみ圧着毛を持ち裏面は無毛であるなど、*M. pilosa* とは異なる。花冠が大きく花糸が非常に幅広く (Hultén 1949)、がくが保護毛に覆われる (Popov 1953) といった *M. pilosa* の特徴にも合わない。従って、今回の標本は *M. paniculata* でも *M. pilosa* でもなく、*M. pterocarpa* の一品種と考え、ここに記載する。

記載文について、京都大学の永益英敏博士にご助言を頂いた。記して感謝いたします。

Mertensia pterocarpa (Turcz.) Tatew. & Ohwi in Acta Phytotax. Geobot. 2: 25 (1933).
forma ***yoshimurae*** T. Fukuda & Hideki Takahashi, form. nov.

吉村 衛氏による科の和名の新提案 (金井弘夫)

Hiroo KANAI: Japanese Family Names of Spermatophytes, a Proposal by Dr. M. Yoshimura

杏林大学の吉村 衛氏が、種子植物の科の和名について広範な提案 (吉村 2000) をされておられるので紹介する。新刊紹介ではなくわざわざ短報とした理由は、この出版物の分類学研究者や機関への周知は不十分と思われる、次回に科の和名を検討する機会には、気づかれずに終わってしまうおそれがあるからである。

科の和名の選定は、日本植物分類学会の発足と共に検討が始まり、1952年に顕花植物、1956年に陰花植物が公表されている (日本

A typo tubo corollae intus piloso differt.

Japanese name: Porosu-rurisô (nov.) ポロスルリソウ (新称)

Habitat: on the rocks of seashore.

Type: the Kuril Islands, Isl. Iturup, Porosu-Sokiya, Jul. 30, 1938. B. Yoshimura & H. Yokoyama s.n. (SAPS).

引用文献

- Hultén E. 1930. Flora of Kamtschatka and the Adjacent Islands 4 (Dicotyledoneae). *Mertensia*. pp. 82–87, Almqvist & Wiksells, Stockholm.
— 1949. Flora of Alaska and Yukon 2 (Dicotyledoneae, Tubiflorae). *Mertensia*. Lund Univ. Årssk. N.F. Avd. 2, 45 (1): 1356–1363.
Komarov V. L. 1930. Flora Peninsulae Kamtschatka 3. Boraginaceae Lindl. pp. 43–56, Acad. Sci. URSS, Leningrad (in Russian).
Popov M. G. 1953. Boraginaceae G. Don. In: Butkov A. Y., Vasiliev V. N., Gorshkova S. G., Grigoriev Y. S., Pavlov N. V. and Popov M. G. (eds.), Flora URSS 19: 97–258. Acad. Sci. URSS, Moscow (in Russian).
Williams L. O. 1937. A monograph of the genus *Mertensia* in North America. Ann. Miss. Bot. Gard. 24: 17–159.

(^a北海道大学農学研究科,
^b北海道大学総合博物館)

植物分類学会 1952, 1956a). また文部省学術用語集植物学編 (1956b, 1990) の巻末には、日本植物分類学会選定になる「植物科名の標準和名」が載っている。

和名には命名の規則はない。したがって前述の「標準和名」というものは「これを使い」というようなものではなく、「同じ科に対して人によって別な呼び名を使うのは情報交換に不便だから、共通に使う名前を打ち合わせておこう」という理解で、「標準和名」が提示されたものである。1952年の原案は、